

in general anesthesia as well as for relief of postoperative pain. The components of Noblon are as follows:

Noblon A:

Grelan®(Pyribital)	200 mg.
Chlorpromazine	12.5mg.
Diphenhydramine hydrochloride	20 mg.

Noblon B:

Grelan (Pyribital)	300 mg.
Chlorpromazine	25 mg.
Diphenhydramine hydrochloride	20 mg.

As for premedication in adults 0.1 gm. of oral pentobarbital was followed by an intramuscular injection of 2 cc. of Noblon B about one hour before the operation. A relatively good sedation was obtained by this medication, but in some cases a drying effect upon bronchial secretion appeared unsatisfactory, which necessitated

us an additional use of atropine.

For the postoperative pain-relief usually 2 cc. of Noblon B was used in adults, but when the effect was insufficient it was followed by an additional administration of 2 cc. Noblon A or other analgesics. In this series a considerably remarkable analgesic effect was observed in the majority of cases (83%), together with somewhat sedative and hypnotic effect.

No serious side reactions were observed except a blood pressure fall, which was found more or less in most cases, possibly due to the effect of chlorpromazine. Although the hypotension was not severe enough to cause any serious complications, it seemed advisable to pay attention to the blood pressure change at least one or two hours after its administration.

長野県新開村々民の生体計測

附 長野県伊那谷と木曾谷住民の身体形質の比較*

昭和33年5月20日受付

信州大学医学部第二解剖学教室 (主任: 鈴木誠教授)

鈴木 誠 西沢 康司 西嶋 典夫

I 緒言

筆者等は長野県住民の身体形質を明らかにする目的をもつて、県下各地域に亘り人類学的調査を実施しているが、本報告もその一部をなすものである。

本調査は昭和28年7月21~23日、長野県西筑摩郡新開村黒川部落に於て実施したものであり、最近数年間にわたり日本人身体計測に関する調査を全国的に行つた文部省科学研究の生体計測班に協力して実施した。

調査に当り同村々民各位の多大の御協力に深謝すると共に、始終格別の御尽力を戴いた当時の黒川小・中学校校長藤野崇氏の御厚情に衷心より感謝する次第である。

尙、總括的な長野県住民の身体形質及び各地方的特質等の詳細な成績は、県下全地域についての調査が完了し、充分な資料を整えてから報告する筈であるが、今回は既に報告された上伊那郡藤沢村(伊那谷)と本村(木曾谷)との比較考察をなし、多少興味ある相違を認めたのでその結果を併せて報告する。

II 資料及び方法

新開村は長野県の西南部に当り、岐阜県に接する西筑摩郡の北部で、木曾山脈(中央アルプス)と飛騨山脈(北アルプス)との間を流れる木曾川に沿つて形成される木曾谷に位置し、西に御嶽山、東南に木曾駒ヶ岳を控え、木曾川の支流に沿う平均標高900米の高冷地村落である。山林が全面積の90%を占めており、農業(殆んど畑作)による食糧は6割を自給出来るにすぎない。労働は山林仕事を主とするが、本地方特有の馬小作(親馬を馬地主より借受け、その小馬を育て、売却金より5~6割を受取る仕組)と云われる制度が古くから行なわれているために、馬糞としての草刈、また厩肥の運搬等も大きな労働であり、更に薪炭その他林産物の運搬仕事、養蠶等が加わる。注目される点は、一つは上述の主な労働のうち、男子の職業となる山林仕事を除いては、女子の労働力が大きな割合を占めていることである。他の一つは土地が大体に於て谷間の急斜面であり、その上前述の馬小作制度により、本

村の家畜の大半を占める馬が極めて大切に育てられるため、殆んどこれを使用せず、人の背に依存していることが多い点である。

本村は戸数459戸、人口2894人である。そのうち調査を実施した黒川部落は、木曾川の二小支流である黒川と西洞川の谷に沿って散在する六つの集落よりなり、本村の約半数の人口を有する。即ち、1293人（男子637人、女子656人）で、そのうち満20才以上の者で両親の出生地を黒川部落内に持つ176名（男子94名、女子82名）について調査した。その年齢分布は第1表に示した通りである。

第1表 年齢分布

年齢	男子	女子
20～29才	27 (28.7%)	25 (30.5%)
30～39才	24 (25.5%)	24 (29.3%)
40～49才	32 (31.1%)	23 (28.0%)
50～59才	11 (11.7%)	8 (9.8%)
60才以上	0	2 (2.4%)
計	94 (100%)	82 (100%)

比較を行った藤沢村は、天龍川に沿う伊那谷に位置し、標高平均900米、面積の90%を山林が占めており、新開村と極めて似た地勢をもつ高冷地である。藤沢村についての詳細は先の報告③を参照され度い。

両村の位置を略図を以つて第1図に示した。

計測方法は大概 Martin の方法によつたが、一部は生体計測班で定めた方法に準じた。即ち、右前腸骨棘高は右前腸骨棘の最も前方に突出する点とし、下肢長は $\frac{1}{2}$ (恥骨結合上縁高+右前腸骨棘高) により算出した。頭耳高は間接法を採用し、Nasion は左右の眼窩上縁に引いた切線が正中線と交わる点をもつて代用したが、但し形態顔面高Ⅱ・鼻高Ⅱの計測に於ては、鼻根部最陥凹点をもつて Nasion とした。

Ⅲ 成績

先ず新開村男女の計測統計値について報告し、次いで藤沢村との比較結果を記述する。

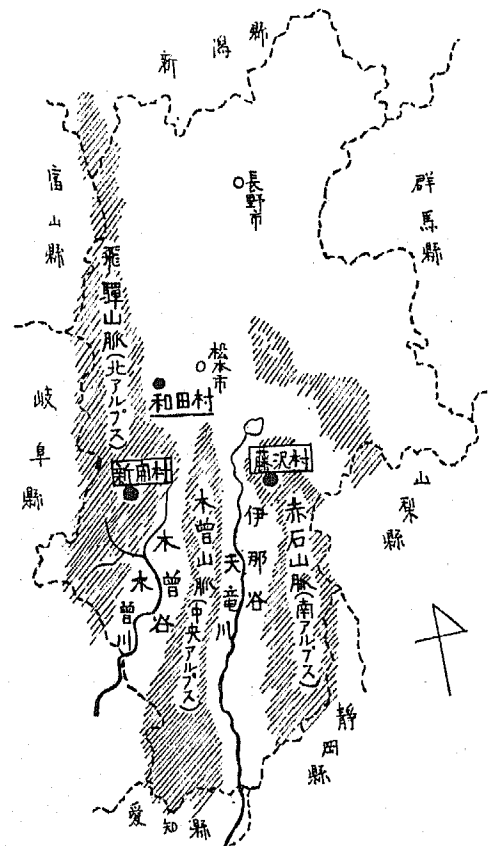
A) 新開村男女計測成績

1) 体部

男女についての体部計測平均値及びその指数平均値は第2表に示した。

絶対値については、骨盤幅を除けば他のすべての項目に於て、男子は明らかに女子より大である。骨盤幅のみ女子は男子に勝るが、 $\frac{D}{MMD} = 2.19$ で確実な有意差はみられない。

第1図 新開村及び藤沢村地勢略図



指数値では比軀幹長、比肩峰幅はいずれも明らかな有意差をもつて、男子は女子に勝っている。これに対し、比骨盤幅は明らかに女子は男子に勝り、又比下肢長に於ても $\frac{D}{MMD} = 2.45$ で不確実ながら女子が勝っている。比上肢長は男女間に差をみない。

身長を Martin の分類に従つて表示すると第3表の通りで、男女とも [小] の階級が最も多く、[稍小]、[中等] の順を示しているが、女子の方が男子に比し高い階級に属するものが多いことが知られる。平均値についてみれば、男子では [小] の階級の上限に位置するのに対し、女子では [稍小] の下限に位置する。

2) 頭顔部

男女の頭顔部計測絶対値及び指数の平均値を第4表に示した。

計測絶対値では、すべての項目とも男子は女子より大であり、最小前頭幅に於て $\frac{D}{MMD} = 2.65$ でその差の不確実なのを除けば、いずれも有意の差を認める。

指数値については、横前頭々頂指数、頬骨前頭指数は明らかに女子が男子に勝り、鉛直頭顔指数では男子

第2表 体部計測値 (絶対値の単位は㎝)

	男 子				女 子			
	n	M ± m	σ	V	n	M ± m	σ	V
身長	94	158.70±0.57	5.57	3.51	81	149.91±0.57	5.10	3.40
胸骨上縁高	94	128.78±0.48	4.65	3.61	81	121.48±0.42	3.81	3.13
右肩峯高	94	128.27±0.51	4.91	3.83	81	121.22±0.44	4.00	3.30
右中指尖高	94	59.82±0.30	2.93	4.89	81	56.39±0.30	2.66	4.72
右腸骨前棘高	90	86.59±0.37	3.52	4.06	70	82.56±0.37	3.12	3.77
恥骨結合上縁高	90	78.56±0.37	3.50	4.45	69	74.86±0.39	3.28	4.38
肩峯幅	94	37.48±0.15	1.50	3.99	82	34.78±0.15	1.35	3.87
骨盤幅	94	27.45±0.14	1.38	5.02	81	27.90±0.15	1.36	4.82
上肢長	94	68.54±0.30	2.88	4.19	81	64.89±0.27	2.41	3.71
下肢長	90	82.68±0.37	3.49	4.22	69	74.65±0.36	2.97	3.77
軀幹長	90	50.48±0.26	2.47	4.89	69	46.78±0.25	2.10	4.49
比上肢長	94	43.21±0.12	1.13	2.62	81	43.27±0.12	1.12	2.60
比下肢長	90	51.99±0.11	1.02	1.95	69	52.39±0.12	1.01	1.93
比軀幹長	90	31.80±0.12	1.14	3.59	69	31.23±0.14	1.20	3.84
比肩峰幅	94	23.63±0.10	0.94	3.96	81	23.17±0.10	0.95	4.09
比骨盤幅	94	17.32±0.08	0.76	4.40	80	18.60±0.08	0.72	3.88

第3表 身長の種類

分類	男 子		女 子	
	階 級	実数及び比率	階 級	実数及び比率
極小	× ~149.9	4 (4.3%)	× ~139.9	4 (4.9%)
小	150.0~159.9	50 (53.2%)	140.0~148.9	31 (38.3%)
稍小	160.0~163.9	28 (29.8%)	149.0~152.9	26 (32.1%)
中等	164.0~166.9	7 (7.4%)	153.0~155.9	13 (16.0%)
稍大	167.0~169.9	3 (3.2%)	156.0~158.9	5 (6.2%)
大	170.0~ ×	2 (2.1%)	159.0~ ×	2 (2.5%)
	計	94 (100%)	計	81 (100%)

が明らかに女子に勝っている。その他の項では明らかな男女間の相違は認められない。

頭顔部に於ける主なる指数値を分類表示すると第5~9表の通りである。

頭長幅指数は第5表の様に、平均値は男女とも短頭型の中位にある。分布の比率は短頭型が約半数を占め、中頭型、過短頭型が大略同比率で残りの半数を占めている。

頭長高指数は第6表の様に平均値では男女とも高頭型の下限に近く位する。分布では高頭型に属するものが大部分で(70~80%)、残りは正頭型が占めている。

頭幅高指数については第7表に示した通りで、平均値は男女ともに低頭型の上限に位する。分布に於ては、低頭型が半数(50~60%)を占め、残りの大部分

が中頭型であり、高頭型は10%前後である。

形態顔面指数〔I〕は第8表に示した通りで、平均値は男女とも長顔型の中位に位する。分布は長顔型最も多く、次いで過長顔、中等顔型の順で、短顔型はわずかに10%以下である。

鼻高幅指数〔I〕は第9表の通りで、平均値は男女とも狭鼻型の中位と上限との中間に位する。分布をみると、狭鼻型が大部分(68~79%)を占め、中鼻型がこれに次ぎ、過狭鼻型、広鼻型は極めてわずかである。

B) 新開村(木曾谷)と藤沢村(伊那谷)両住民の比較成績

主な生体計測値及びその指数について、両者間の相違を比較した結果は次の通りである。

第4表 頭 顔 部 計 測 値 (絶対値の単位はmm)

	男 子				女 子			
	n	M ± m	σ	V	n	M ± m	σ	V
頭 長	94	187.14±0.56	5.45	2.91	82	179.45±0.75	6.79	3.78
頭 幅	94	155.80±0.55	5.36	3.44	82	150.46±0.59	5.32	3.54
最 小 前 頭 幅	92	104.99±0.48	4.65	4.43	82	103.30±0.42	3.80	3.68
頰 骨 弓 幅	94	143.03±0.48	4.65	3.25	81	137.25±0.50	4.46	3.25
下 顎 角 幅	94	99.06±0.53	5.16	5.21	82	93.45±0.43	3.87	4.15
相 貌 顔 面 高	91	187.15±0.69	6.61	3.53	70	180.36±0.95	7.93	4.40
形 態 顔 面 高 I	89	129.15±0.59	5.53	4.28	70	123.64±0.69	5.73	4.64
形 態 顔 面 高 II	89	120.37±0.64	6.01	4.99	70	113.07±0.65	5.43	4.80
鼻 高 I	94	56.81±0.39	3.76	6.61	82	54.26±0.38	3.43	6.33
鼻 高 II	94	48.48±0.35	3.39	6.98	82	44.89±0.29	2.64	5.89
鼻 幅	94	37.13±0.26	2.48	6.68	81	33.85±0.27	2.41	7.12
頭 耳 高	94	120.93±0.59	5.74	4.75	81	117.91±0.77	6.92	5.87
頭 長 幅 指 数	94	83.37±0.39	3.76	4.51	82	83.50±0.48	4.35	5.21
頭 長 高 指 数	94	64.50±0.31	3.04	4.72	81	65.77±0.45	4.09	6.21
頭 幅 高 指 数	94	77.72±0.42	4.11	5.29	81	78.50±0.62	5.54	7.05
横 前 頭 頂 指 数	92	67.37±0.36	3.41	5.06	82	69.12±0.33	3.00	4.34
相 貌 顔 面 指 数	91	130.90±0.65	5.86	4.47	70	131.91±0.93	7.74	5.87
形 態 顔 面 指 数 I	89	90.48±0.51	4.85	5.36	70	90.36±0.59	4.90	5.42
形 態 顔 面 指 数 II	89	84.24±0.53	5.02	5.96	70	82.84±0.54	4.54	5.48
頰 骨 下 顎 指 数	94	69.30±0.33	3.19	4.60	81	68.22±0.29	2.67	3.92
頰 骨 前 頭 指 数	92	73.43±0.36	3.41	4.65	81	75.62±0.40	3.63	4.80
横 頭 顔 指 数	94	91.88±0.30	2.95	3.21	82	91.57±0.41	3.74	4.90
鉛 直 頭 顔 指 数	89	107.06±0.71	6.70	6.26	69	102.38±0.85	7.07	6.90
鼻 高 幅 指 数 I	94	65.85±0.67	6.48	9.83	81	63.49±0.71	6.47	10.19
鼻 高 幅 指 数 II	92	76.88±0.77	7.40	9.63	82	76.78±0.94	8.55	11.13

第5表 頭長幅指数の分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
長 頭	× ~75.9	1 (1.1%)	0		
中 頭	76.0~80.9	22 (23.4%)	24 (29.3%)		
短 頭	81.0~85.4	46 (48.9%)	34 (41.4%)		
過短頭	85.5~ ×	25 (26.6%)	24 (29.3%)		
計		94 (100%)	82 (100%)		

第7表 頭幅高指数の分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
低 頭	× ~78.9	60 (63.8%)	42 (51.9%)		
中 頭	79.0~84.9	29 (30.9%)	30 (37.0%)		
高 頭	85.0~ ×	5 (5.3%)	9 (11.1%)		
計		94 (100%)	81 (100%)		

第6表 頭長高指数の分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
低 頭	× ~57.6	0	2 (2.5%)		
正 頭	57.7~62.5	27 (28.7%)	16 (19.7%)		
高 頭	62.6~ ×	67 (71.3%)	63 (77.8%)		
計		94 (100%)	81 (100%)		

第8表 形態顔面指数 (I) の分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
過短顔	× ~78.9	0	0		
短 顔	79.0~83.9	8 (9.0%)	6 (8.6%)		
中等顔	84.0~87.9	19 (21.3%)	16 (22.8%)		
長 顔	88.0~92.9	32 (36.0%)	27 (38.6%)		
過長顔	93.0~ ×	30 (33.7%)	21 (30.0%)		
計		89 (100%)	70 (100%)		

第9表 鼻指数(鼻高幅指数)(I)の分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率		実数及び比率	
過狭鼻	× ~54.9	3 (3.2%)		5 (6.1%)	
狭 鼻	55.0~69.9	63 (68.5%)		65 (79.3%)	
中 鼻	70.0~84.9	25 (27.2%)		11 (13.4%)	
広 鼻	85.0~99.9	1 (1.1%)		1 (1.2%)	
超広鼻	100.0~×	0		0	
	計	92 (100%)		82 (100%)	

1) 体 部

体部に於ける比較結果を第10表に示した。
 男子に於ては、絶対値では肩峯幅、軀幹長のみ新開村が川上村に勝る他は、すべて藤沢村男子の方が大きい。有意の差はいずれにも認められない。これに対し肩峯幅に於ては新開村男子が大きく、略確実に近い有意差がみられる。指数に於ては、比肩峯幅が意義ある差をもつて新開村が藤沢村男子に勝り、比軀幹長で有意差はないが比較的大きな差を示して新開村が藤沢村男子に勝っている。その他の指数値では両村間の男

第10表 体 部 比 較 成 績

M₁=藤沢村, M₂=新開村 (*印は有意差を示す)

	男 子			女 子		
	D(M ₁ -M ₂)	D/mD		D(M ₁ -M ₂)	D/mD	
身 長	0.67	0.94		-1.10	-1.57	
胸骨上縁高	0.14	0.23		-0.97	-1.76	
右肩峯高	1.28	2.03		-1.17	-0.48	
右中指指尖高	0.72	2.16		0.07	0.18	
右腸骨前棘高	0.25	0.54		-1.12	-2.38	
恥骨結合上縁高	0.39	0.89		-1.25	-2.66	
肩 峰 幅	-0.56	-2.80	*	-1.10	-5.79	*
骨 盤 幅	0.01	0.06		-0.43	-2.39	
上 肢 長	0.34	0.92		-1.32	-3.88	*
下 肢 長	0.15	0.33		-1.18	-2.62	
軀 幹 長	-0.37	-1.12		-0.23	0.70	
比 上 肢 長	0.03	0.20		-0.56	-3.50	*
比 下 肢 長	0.02	0.14		-0.36	-2.25	
比 軀 幹 長	-0.36	-2.57		0.29	1.61	
比 肩 峰 幅	-1.09	-8.38	*	-0.55	4.23	*
比 骨 盤 幅	0.08	0.73		-0.17	-1.55	

第11表 頭 顔 部 比 較 成 績

M₁=藤沢村, M₂=新開村 (*印は有意差を示す)

	男 子			女 子		
	D(M ₁ -M ₂)	D/mD		D(M ₁ -M ₂)	D/mD	
頭 長	0.67	0.85		0.90	0.98	
頭 幅	-2.84	-4.12	*	-2.60	-3.56	*
頰骨弓幅	0.62	0.95		-0.59	-0.94	
下顎角幅	7.77	10.64	*	6.06	9.93	*
形態顔面高 I	2.58	3.35	*	1.99	2.41	
頭 耳 高	0.88	1.09		-0.62	-0.65	
頭長幅指数	-1.87	-3.74	*	-1.55	-2.63	
頭長高指数	0.29	0.66		-0.71	-1.28	
頭幅高指数	1.95	3.55	*	0.73	0.88	
頰骨下顎指数	5.11	11.36	*	4.60	11.50	*
形態顔面指数	1.01	1.53		1.45	2.07	

子に差違はみられない。

女子では男子に於けると異なり、絶対値では全体的に新開村女子が藤沢村より大きい傾向が認められる。たゞ中指尖高と軀幹長のみわずかの差で藤沢村女子の方が大きい。そのうち肩峯幅と上肢長では明らかな差の有意性が認められる。

上述の体部に於ける相違点を要約すれば、男子では全体的に両村間に差をみないのに対し、女子に於ては新開村が藤沢村より大きい傾向を認めることである。また男女ともに肩峯幅及び比肩峯幅に於て、新開村住民は藤沢村住民より著しく勝っていることである。この相違点については、資料の項で述べた様に、藤沢村にはみられない新開村に特有の馬小作制度による労働の相違、即ち肩による物の運搬が強く男女に要求されること、及び女子の労働量が多いこととの関連が考えられる。即ち、新開村男女に於て、その特異なる労働形態が身体形質に及ぼす影響の結果、両村間にかゝる相違を生ぜしめたのではないかと考えられる。

2) 頭 顔 部

頭顔部に於ける比較結果は第11表に示した通りである。

頭幅及び頭長幅指数は男女とも新開村が大きく、女子の頭長幅指数に於てその差が不確定である以外は、いずれも有意の差を認める。

下顎角幅、形態顔面高〔I〕及び頬骨下顎指数では男女とも藤沢村が新開村より大きく、女子の形態顔面高を除いては、いずれも有意の差がみられる。その他の項目に於ては両村間に差をみない。

第2, 3図は体部計測値及びその指数について、新開村を基準とする関係偏差折線である。尙参考長野県東筑摩郡和田村の成績を図中破線をもつて併記した。

IV 総 括

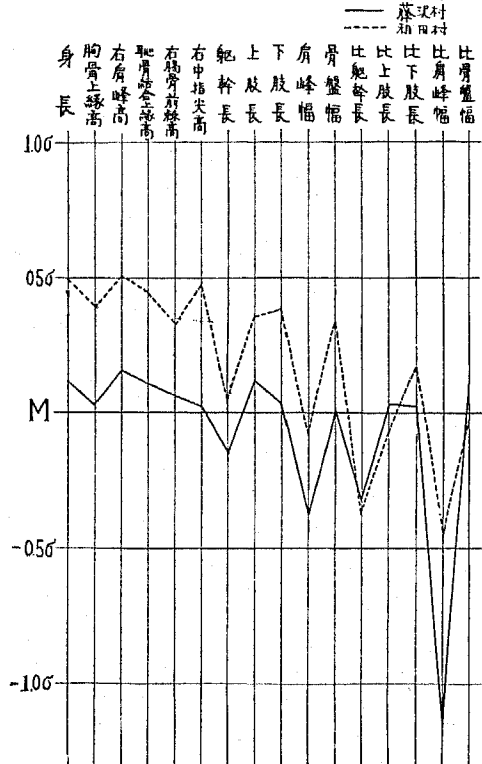
A) 長野県西筑摩郡新開村々民男子94名、女子82名計176名の生体計測による成績を要約すると次の通りである。

1. 体部では計測絶対値に於ては、骨盤幅を除く他のすべての項目に於て男子は女子より大きい。

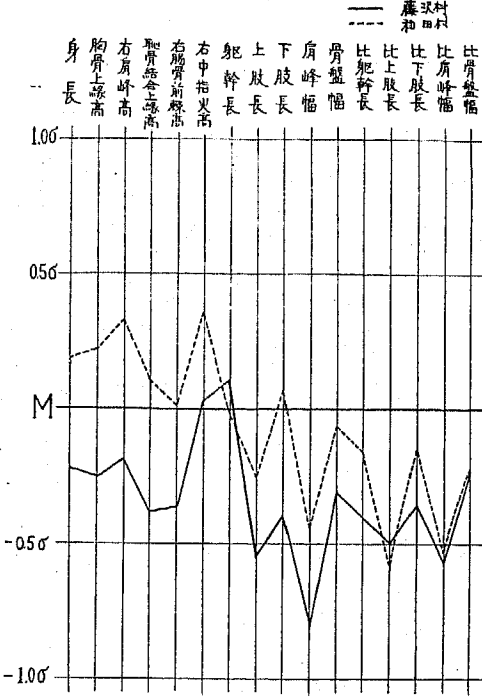
指数に於ては体部では、比上肢長、比下肢長が男女間に差がなく、比肩峯幅及び比軀幹長は男子が女子に、比骨盤幅は女子が男子に勝っている。頭顔部に於ては、絶対値はすべて男子が女子より大きい。指数では横前頭々頂指数及び頬骨前頭指数に於て女子は男子に勝り、鉛直頭顔指数では男子が女子に勝っている。その他の項目では明らかな男女間の差をみない。

2. 身長は男子では〔小〕、女子では〔稍小〕に属

第2図 関係偏差折線 (男子)



第3図 関係偏差折線 (女子)



する。

3. 頭長幅指数は男女とも短頭型である。
4. 頭長高指数は男女とも高頭型である。
5. 頭幅高指数は男女とも低頭型である。
6. 形態顔面指数〔I〕は男女とも長顔型に属する。
7. 鼻高幅指数〔I〕は男女とも狭鼻型に属する。

B) 長野県下に於て、新開村(木曾谷)と地理的条件を略同じくする上伊那郡藤沢村(伊那谷)との比較成績は次の通りである。

1. 体部に於ては、男子は全般的に両村間に相違はみられない。女子では新開村が藤沢村に勝る傾向を認める。

2. 体部項目に於て差の明らかなものは、男子では比肩峯幅で新開村が藤沢村に勝り、女子では肩峯幅、比肩峰幅及び上肢長、比上肢長に於てある。比較的有意差を認めるのは、何れも新開村が藤沢村に勝る男子の肩峯幅、女子では恥骨結合上縁高及び比下肢長である。

3. 頭幅及び頭長幅指数は男女ともに新開村が藤沢村より大きい。下顎角幅及び頬骨下顎指数は、男女とも藤沢村が新開村に勝る。又男子の形態顔面高及び頭幅高指数は藤沢村が新開村に勝っている。

両村間の差は以上の様であるが、体部の項目に於て男女ともに肩峯幅、比肩峯幅に於て新開村が藤沢村に著しく勝っていること、女子に於て新開村が藤沢村に勝る体格を示す点については、新開村の特有な馬小作制度による労働形態の相違が、かゝる両村間の差異を生ぜしめる一要因となつてゐるのではないかと考える。

* 本論文の要旨は第59回日本解剖学会總會(1954年5月)に於て発表した。

文 献

- ①文部省科学研究生体測定班報告書、日本人の生体測定。昭25(1950)、昭26(1951)、昭27(1952)。
- ②Martin, R. Lehrbuch der Anthropologie, 2 Aufl., Jena, 1928.
- ③鈴木 誠・栗岩 純・西沢康司, 長野県藤沢村々民の生体計測, 信州医学雑誌, 3, 3: 33, 昭29.
- ④鈴木 誠・栗岩 純・西沢康司, 長野県和田村々民の生体計測. 信州医学雑誌, 5, 3: 37, 昭31.
- ⑤人類学・先史学講座, 4: 1, 雄山閣, 昭13.
- ⑥高野武悦, 伊那住民の体質人類学的研究. 信州医学雑誌, 3, 1: 23, 昭29.
- ⑦加藤守男, 長野県松尾村住民の体質人類学的研究, 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 第9輯, 昭28.

Somatometry of the Inhabitants in Shinkai-Mura, Nagano Prefecture and Comparison of the Physical Characteristics between the Inhabitants in Ina and Kiso Ravines

Makoto Suzuki, Yasuji Nishizawa
and Norio Nishijima

Department of Anatomy, Faculty of
Medicine, Shinshu University
(Director: Prof. M. Suzuki)

The authors carried out anthropometric investigations in 176 inhabitants (94 males and 82 females) in Shinkai-Mura, Nagano Prefecture, on July 1953.

Also we have examined the differences of the physical characteristics between the inhabitants in Ina (Fujisawa-Mura) and Kiso (Shinkai-Mura) ravines.

The results are summarized as follows:

1. All measurement values in male, except the breadth of hips, are larger than in female. The indices of the relative breadth of the shoulders and relative length of the trunk in male are larger than in female, and the index of the relative breadth of the hips in female are larger than in male. In the head, the transversal frontoparietal index and zygomatico-frontal index in female are larger than in male, but the vertical cephalo-facial index in male are larger than in female.

2. In regard to the stature, the male inhabitants are "short" and the female "a little short".

3. They are in both sexes brachycephalic, hypsiccephalic and tapeinocephalic in the head, and leptoprosopic and leptorrhinc in the face.

4. Compared results.

i. In regard to the body, the male inhabitants are almost similar in both villages but the female in Kurokawa-Mura have a tendency to be superior to those in Fujisawa-Mura.

ii. In regard to the breadth of the shoulders and their relative breadth, the inhabitants in Shinkai-Mura are clearly larger than those in Fujisawa-Mura in both sexes.

iii. In regard to the breadth of the head and cephalic index, the inhabitants Shinkai-Mura are larger than these Fujisawa-Mura in both sexes. While in the breadth of the mandibular angle and zygomatico-mandibular index, the latter are larger than the former in both sexes.